

令和2年度 西条市インターンシップ研修成果報告

✓研修生

所属:京都大学大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

氏名:山田誠士

✓インターンシップ研修成果報告

○ 自身の研究内容

研究名

地域特性を反映した「食と農つながり」の解明と地域の持続的発展に向けた実践的調査研究

研究内容

西条市の石鎚山系の北東山麓に位置する加茂地区千町(以下、千町)にてインターンシップ研修を行いました。千町は石積みの約2,500枚の棚田があり、非常に美しい景観を作り出しています。さらに、人々は棚田の利用と維持管理と深くかかわる他の地域にはない特別な生活をしていました。しかし、時代の流れとともに現在はその9割以上が耕作放棄地になっています。私はインターンシップ研修を通じて千町の素晴らしい地域文化を掘り起こし将来世代に残すとともに、地域の方々が少しでも元気になれるような取り組みを模索しました。

○ 西条市でのインターンシップ研修を通して学んだこと

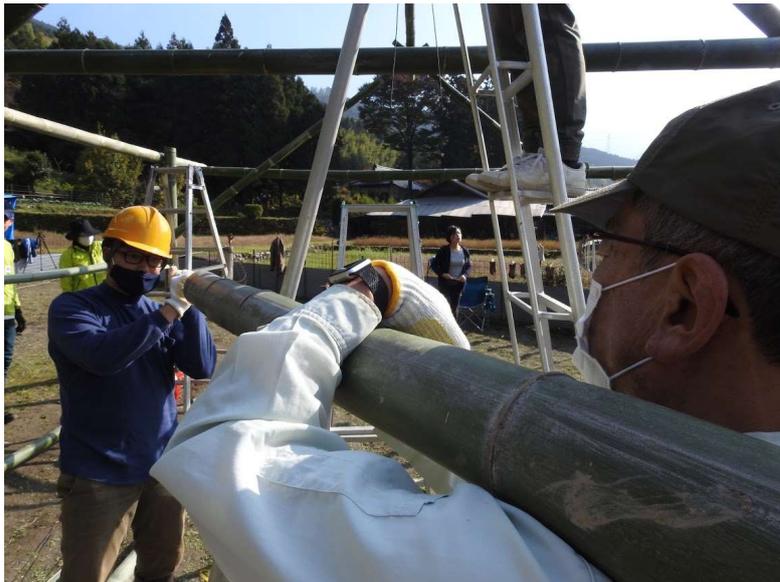


図1 建設用の竹を運ぶ様子



図 2 完成した竹を用いたビニールハウス（間口 4.6m, 奥行 15m, 棟高 3m）

地域の方々が元気になれるような取り組みのきっかけになればと思い、同大学院人間環境設計論研究室(小林広英教授)が中心となって設計した、地域資源の竹を使ったビニールハウスを、西条市や西条高校をはじめ、地域の多くの方々の協力を頂き、力を合わせて建設しました。建設プロセスを通じて千町に受け継がれてきた知恵に触れることができました。たとえば、竹を伐採するのに適した時期や、石を利用して安定した基礎を作る知恵等です。小林教授によると後者の知恵は東南アジアにおいてもみられるとの事であり、各地域において編み出された知恵が一つの在来知として帰結するのではないかということが分かり非常に興味深いと感じました。この建設を通じて在来知の発掘を行うことができたと同時に、多様な主体の参加によって交流人口の創出にも貢献できたのではないかと考えています。

○ 西条市での生活で印象に残ったこと



図 3 うちぬき広場前の石碑にてスーパーバイザーの徳増氏と撮影

一つ印象に残ったことを取り上げると、やはり西条市の水の豊富さとその味

です。この素晴らしい水を使った農産物の質の高さや料理のおいしさには期間中いつも驚いていました。特に、西条市の水を使って炊飯した時に食べたお米の味は今でも忘れることはできません。このほかにも、印象に残ったことは優しい人々とのつながら、素晴らしい景色等ここには書ききれないほどたくさんあります。期間中にはたくさんの方々に支えていただきながら活動を行うことができました。本当にありがとうございました。